基礎・基本編

全国学力・学習状況調査の結果を活用した指導改善に向けて

# 子どもの学びを支えるヒント集

## ～　先生方の「？」にお答えします　～

平成27年２月

岡山県総合教育センター

# はじめに

全国学力・学習状況調査は，児童生徒への学習指導の改善や充実に役立てることを目的として実施され，各校には調査結果を踏まえた検証改善サイクルを確立することが求められています。

このブックレットには，全国学力・学習状況調査の結果から捉えた各校の課題を解決するためのヒントをまとめています。小学校編と中学校編に分けて，授業における学習指導方法の工夫や，岡山県内小・中学校の好事例を基にした振り返り学習の充実に向けた取り組みのポイント等を示しています。

学習指導方法の工夫について，主として「知識」に関する問題（A問題）の中からいくつかの設問を取り上げ，指導のポイントや学習活動例等を示すことで，実際の授業において活用できるようにまとめています。

また，振り返り学習の充実に向けた取り組みについて，小学校編では朝学習と放課後学習を取り上げ，中学校編では放課後学習と家庭学習等を取り上げました。実際に取り組みが進められている学校から情報を収集し，効果的と思われる内容をまとめています。

全国学力・学習状況調査の結果から捉えた各校の課題は，調査対象の教科・学年のみならず，学校全体で系統的・継続的な指導に取り組み，改善や充実を図っていくことが大切です。このブックレットを学校の先生方みなさんでお読みいただき，各校で捉えた課題に沿ってご活用いただきたいと思います。

なお，本ブックレットは「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）と「平成26年度全国学力・学習状況調査結果の概要」（岡山県教育庁義務教育課）を参考に作成しました。

目　　次


岡山県の児童生徒の学力の現状と課題・・・・・・・・・1

小学校編

設問別に見る学習指導方法の工夫（国語）・・・・・・2

設問別に見る学習指導方法の工夫（算数）・・・・・・6

更なる指導の改善・充実に向けて・・・・・・・・・ 10

単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実・・・ 12

中学校編

設問別に見る学習指導方法の工夫（国語）・・・・・ 18

設問別に見る学習指導方法の工夫（数学）・・・・・ 22

更なる指導の改善・充実に向けて・・・・・・・・・ 26

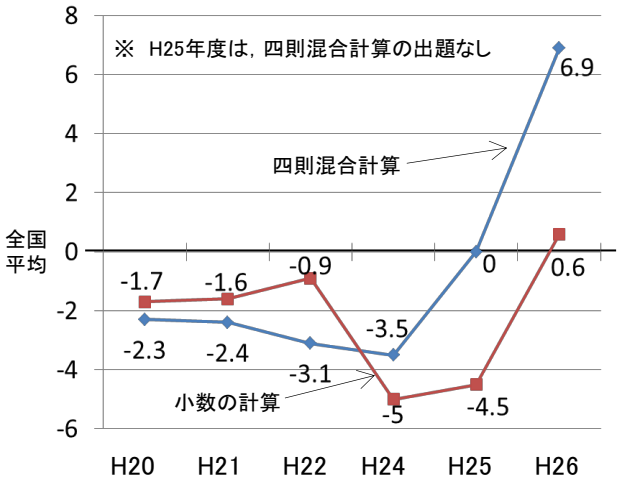
単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実・・・ 28

# 岡山県の児童生徒の学力の現状と課題
## －　全国学力・学習状況調査のA問題に注目して　－

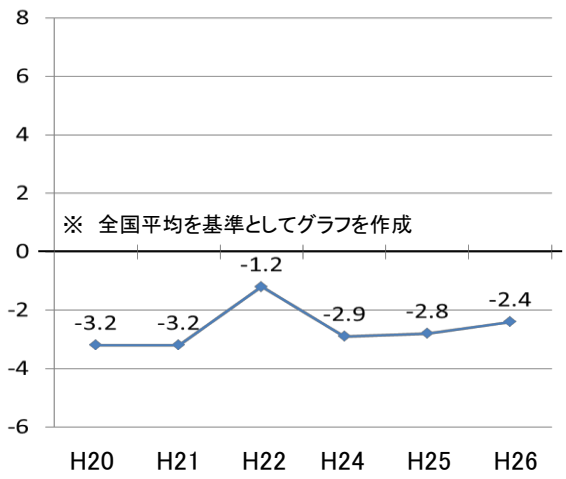
## ■基礎的・基本的な内容の定着に課題

全国学力・学習状況調査の結果から，対象となる児童生徒が年度によって異なっていっても，経年変化を見ていく中で県全体の傾向を見いだせることがあります。

例えば，小学校の全国学力・学習状況調査A問題に注目すると，算数Aの結果から，四則混合計算や小数の計算については改善の傾向が見られる一方で，割合・百分率に関する問題については苦手とする傾向が続いていることが分かります。



全国平均と県平均との正答率の差の推移
（四則混合計算や小数の計算）



全国平均と県平均との正答率の差の推移
（割合・百分率に関する問題）

また，小学校国語Aにおいても，例えば，漢字の読み書きに関する問題に改善の傾向が見られる一方で，ことわざ，言葉の意味や使い方の理解に関する問題に課題が見られる傾向が続いています。

さらに，中学校数学Aに注目すると，調査直前に学習した確率・場合の数の問題を比較的得意とする傾向が見られる一方で，以前に学習した内容を苦手とする生徒が多いという傾向が見られます。このような傾向からも，単元・学期・年度を越えた基礎的・基本的な内容の確実な「定着」が，小学校・中学校に共通してA問題の調査結果から見えてくる課題と言えます。

## ■定着を図る（確かめる）取り組みの充実

各小学校・中学校で児童生徒が苦手としている内容，または年度を越えて見られる傾向などは県全体の傾向とは異なる場合もありますが，定着を図る取り組みの充実を進める上で次の二つのことが大切です。一つは，実態把握を基にした「児童生徒の苦手としている内容を意識した授業改善」です。もう一つは，「家庭学習や補充学習などの授業外での学習」の一層の充実です。

# 小学校編

## ■設問別に見る学習指導方法の工夫（国語）

**H25・26国語A 1**
漢字を読んだり書いたりする

漢字を正しく読んだり書いたりできるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問は，平成25年，26年の２年間の漢字の読み書きについて正答率が低かったものです。読みについては，「さいしゅ」「いきよ(い)」などの語彙に関わる誤答が多く，書きについては，「てい」の同音異字（「定」など）との誤答や「設ける」「祝う」の「へん」を異なるものにした誤答が多く見られました（設→役，祝→祝）。また，「祝」を字形の似た「税」と間違えるなどの誤答も見られました。

〈平成25年度〉
- めずらしい植物を採集する。
  →県56.0%　全国64.9%
- バスがていしゃした。
  →県46.5%　全国46.9%
- 委員会をもうける。
  →県54.9%　全国53.5%

〈平成２６年度〉
- 勢いよく走り出す。
  →県73.0%　全国74.4%
- 勝利をいわう。
  →県56.7%　全国59.3%

ここでまず注目したいのは，普段の指導で見過ごされがちな読みの課題です。知らず知らずのうちに誤って覚えてしまうことがないように，音読の際に音声化された読みを確認することなどを通して，確実な語彙力を身に付けさせる必要があります。さらに書きについても，それぞれの漢字を正しく書くことはもとより，既知の知識からその文脈で用いるべき漢字を正しく判断できる力が必要です。

**ポイント**

日常生活の中で頻繁に使用する漢字は定着しやすいものですが，そうでない漢字は意図的にふれさせる機会をつくることが必須です。新出漢字をノートに繰り返し書いて練習させる指導とともに，既習の漢字を復習できる使用場面を意図的に設定しましょう。さらに，単元・学期・学年単位の期間で，定着状況を確認する場を設け，その中で正確な漢字の習得を図る指導を行っていくことも大切です。

**指導例**

○学習した字を音訓，部首，字形などから整理する活動

同音異義語や「へん」「つくり」の同じ字などを関連付けて整理し，意味の違いなどを正しく理解させます。間違いやすい読みも正しく発音させ，語彙力を高めます。

○日記，作文，連絡帳，ノートへの記述など様々な場面で活用する活動

学習した漢字は必ず使うように指導します。使えていないときには，朱書きするなどして意識化させます。使えているときには，日常生活の中で活用できたことを認め，価値付けをすることで自信をもたせ，読み書きの確かな定着へとつなげていきます。

## H26国語A 2

故事成語の意味と使い方を理解する

故事成語の意味を理解して，文章の中で使うことができるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問は，平成26年度国語Ａの中で最も全国平均との正答率の差が大きかったものです。「五十歩百歩」の故事成語は，「百聞は一見にしかず」と並んで本調査で明らかになった大きな課題といえます。この設問は正しいものを選ぶ選択式ですので，誤答から傾向を見てみましょう。

| | 五十歩百歩 | 百聞は一見にしかず |
|---|---|---|
| 正答 | 県48.4%　全国55.8% | 県43.7%　全国49.9% |
| 誤答 | 1：県15.4%　全国14.3%<br>2：県35.8%　全国29.5% | 1：県30.2%　全国27.0%<br>3：県25.6%　全国22.6% |

このように，２を選択して誤答となった児童が１を選択した児童の倍以上いることが分かります。「五十歩百歩」を肯定的な意味で誤用した選択肢２に解答が集中したことから，この故事成語の否定的なニュアンスを捉えられていないことが推測されます。そのため「（五十歩）＜（百歩）」という表面的な字面から数が大きい方が上という発想に立ってしまったものと考えられます。故事成語やことわざ，慣用句などの言語知識は，使用する中で確実な定着を図ることが重要です。

一　「五十歩百歩」

1　姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちを注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとっては、**五十歩百歩**だ。

2　私たちの学級では、学年で行われる学級対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから、優勝できたのは、**五十歩百歩**だ。

3　山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を五回忘れたのか、六回忘れたのかで言い争っていた。このようなことで言い争う二人は、**五十歩百歩**だ。

**ポイント**

児童が主体的に故事成語を調べていくことができるように，興味や関心を高める手だてを考えましょう。語源を確かめさせたり，動物にまつわるもの，数字を用いたものなどを分類して示させたりすることも工夫の一つです。その上で，意味調べで終わらせず，故事成語を用いたストーリーを考えさせたり，スピーチで使用させたりするなど，意味理解にとどまるのではなく，自分の表現に活用させることが大切です。

**指導例**

○故事成語を用いて創作する活動

単元名　お気に入りの故事成語を紹介しよう

第１時　取り上げる故事成語を決め，意味を確認する。

いくつかの故事成語を提示し，共通点に沿って仲間分けをさせます。お気に入りの故事成語を見つけたいという思いが広がったところで意味を調べさせます。

第２時　取り上げた故事成語を使った物語や四コマ漫画を作る。

第３時　作った物語や四コマ漫画を友達と交流し，故事成語の使い方を確かめる。

グループ内で紹介し合い，故事成語の意味と物語や四コマ漫画のストーリーが対応しているかどうかについての感想をワークシートに記入させます。集まった感想を基に自分の作品を見直し，故事成語の正しい使い方を確認させるようにします。

## H25国語A 3

### 文の構成を捉える

長い文を接続語を使って正しく分けることができるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問は，平成25年度国語Aで，最も正答率の低かったものです。岡山県の正答率は20.7%で，全国は23.4%でした。平成21年度国語Aで同一の問題が出題されており，その時と比べると正答率は上昇しましたが，依然として指導者にとって大きな課題を示唆する問いです。

「そうにしていた（。だから、）ぼくは、これま」と書けていれば正答です。「だから」の前を「不安そうにして」とするなど文末を終止形にできていない誤答や，「話し合いをした（。だから、）ぼくは、委員長」などと書き直す箇所を理解できていない誤答も見られましたが，ここでは特に，「そうにしていた（。だから、）経験を生かして」のように主語が省略されている誤答に注目したいと思います。こう解答した児童には，主語が異なる二つの内容を含む重文のような複雑な構造の文を理解することや，主語を明記する意識に課題があることが考えられます。主語を明記する意識の欠如は，文章を書く場面や話す場面にも影響するため，言語活動全般で，主語を明らかにして分かりやすく表現することや，複雑な内容の文章を構造的に理解することについての継続的な指導が望まれます。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

二 【文章の一部】の中の――部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから、」に続く七文字を書きましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

**ポイント**

まずは低学年で「文の意識」をもたせることが大切です。主述や修飾・被修飾の関係など基本的な文の構成をおさえさせます。その上で，それを踏まえて，目的や文脈に応じて，短く簡潔な文を書いたり，詳しく説明する長めの文を書いたりすることにつなげていきます。「読むこと」の指導でも「文脈に即して」「叙述を基に」といった目標をよく掲げますが，こうした分析的な理解を促す上でも必要な力です。

**活動例**

○文と文との意味のつながりを考えながら分かりやすい文にする活動

単元名：つなぎ言葉を使って文を作ろう

第１時　例文を基に意味が分かりにくい一文を二文に書き直すポイントについて話し合う。

例文を読み，意味が分かりにくくなっている理由を話し合わせます。さらに，主述に着目するといったポイントを確認させます。

第２時　例文を取り上げ，意味が分かりにくくなっている理由を確かめた後，文と文との意味のつながりを考えながら分かりやすい文に書き直す。

第３時　これまでに自分が書いた文章を振り返る。

これまでに書いた作文や日記などの中から意味が分かりにくくなっている長い一文を探し，その文をいくつかの短い内容に分けて，分かりやすい文に書き直させます。

## H26国語A 5

物語の登場人物の相互関係を捉える

登場人物の相互関係を捉えられるようにするためには，どうしたらいいですか？

出典の志賀直哉「かくれんぼう」は，大正13年の作品です。こうした文章をきちんと読み取るためには，「やや昔の文体」への慣れも必要ですが，それ以上に，物語文中の台詞の話者やそれを聞いた人物の反応を整理しながら読む姿勢が問われます。この設問は，空欄に登場人物の名前を入れるものです。それぞれの空欄について，誰が話者か，誰に向けられた言葉かを台詞の内容や人物の行動描写から判断していきますが，ここでは，それまでの台詞がそれぞれ誰から誰に向けた言葉であるか，特に「そんなら，いいわ。私，おにになるわ。」と言ったのが，「よし子」であることが読み取れていることが正答の条件となります。

**ア**・**イ**・**ウ**の中には，「よし子」・「ジョール」・「オデット」という人物の名前が入ります。それぞれに当てはまる名前を書きましょう。ただし，同じ名前は一回しか入りません。

よし子もオデットさんも耳をすまし、ジョールさんの口から出る言葉を待っている。

しばらくして、

「オデットだ。」

と、ジョールさんはきっぱり言い切った。緊張はゆるむ。

「ジョールはうそ。いやだわ、私。」

オデットさんはまゆ根を寄せ、かたに付くほど首をかたむけ、後ろ手に門の戸をすって横歩きしながら、泣きだしそうな顔をした。

よし子は、気の毒そうに、だまってしばらくそれを見ていたが、

「そんなら、いいわ。私、おにになるわ。」

と言った。

「**ア**、ずるい。」

兄さんは妹をにらんだ。

「いいことよ、私がおにになるから。早くおにげなさい。ね、早くおにげなさい。私、ここにこうしているから。」

**イ**は、両の手を顔に当てて後ろを向いた。

「オデット、おいで。」

**ウ**さんは不興気に言った。

この設問の岡山県の正答率は63.4%（全国65.3%）でした。三つの空欄全てが正しくない誤答が最も多く，空欄**ウ**のみ正しくジョールを選択できていた誤答がそれに次いで多くいました。場面における関係を整理しながら考えたのではなく，「さん」という敬称をヒントとして解答した可能性が推測されます。

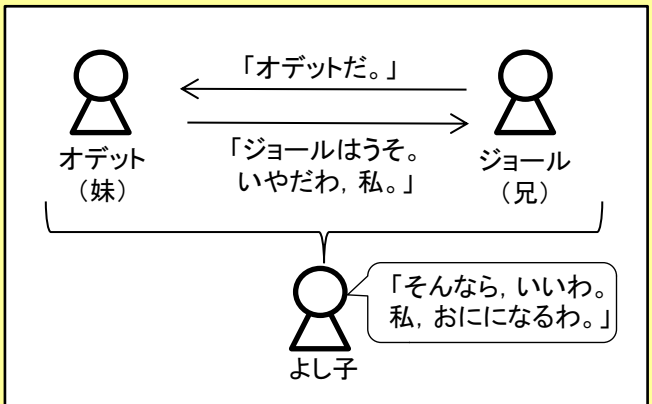
**ポイント**

物語などを読むときは，登場人物の相互関係を捉え，それらに基づいて心情や場面の描写について考えることが重要です。そのためには，まず，中心人物の行動や性格をきちんと踏まえた上で，他の登場人物との関わりの変化を場面の展開に即して読み取ったり，その上で気持ちはどう移り変わっているかを捉えたりすることができるように指導することが大切です。

**活動例**

○会話に着目して，登場人物の関係を図式化する活動

物語には，登場人物の行動や会話，周りの情景などの描写といった様々な表現が使われています。登場人物の関係を捉えさせるためには，それらの表現に着目させるだけでなく，関係が視覚的に整理できるように，児童の発言を生かしながら板書に位置付けるなどして指導することが大切です。




会話描写を基にした人物関係図の例

# ■設問別に見る学習指導方法の工夫（算数）

## H26算数A 2

乗法の意味（割合）

割合が１より小さくなっても，正しく立式できるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問の正答率は，全国が54.1％，岡山県が51.2％であり，全国平均を2.9ポイント下回っています。

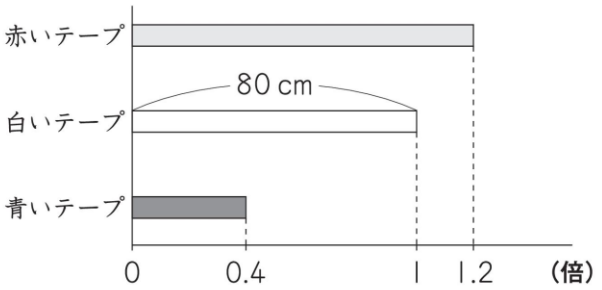
割合が１より小さい場合においても，比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解することに課題があるといえます。

誤答については，選択肢４「80÷0.4」と解答した児童が最も多く，28.1％でした。

つまずきの要因としては，青いテープは，白いテープより短いことから，１より小さいので除法と捉えていると考えられます。

また，次に多い誤答は選択肢２「80－0.6」と解答したもので，18.3％でした。これも，青いテープが，白いテープより短いことから減法にしており，量と割合を混同して捉えていると考えられます。

下の図のように，白いテープの長さをもとにして，赤いテープと青いテープの長さを表しました。




（２）青いテープの長さを求める式を，下の1から4までの中から１つ選んで，その番号を書きましょう。

1　80＋0.6
2　80－0.6
③　80×0.4
4　80÷0.4

**ポイント**

整数の乗法については，第２学年から「何倍かに当たる大きさを求める」などの場合に用いることを学習します。

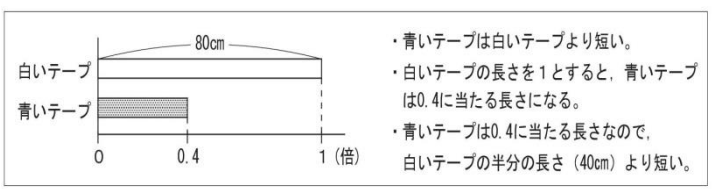
そこで，整数倍の学習を想起し，数量関係を表している文脈が同じときには，何倍かに当たる数が小数の場合でも同じように考え，小数倍についての理解を深めることが大切です。

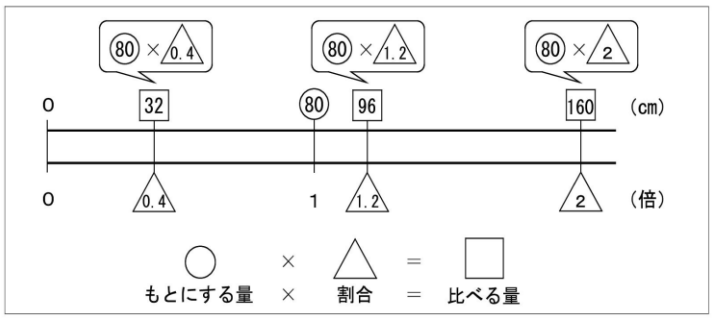
**活動例**

○図を基に倍関係を捉え，演算決定する活動

本設問を用いてまず，右上のように基準量（もとにする量）と比較量（比べる量）の関係を観察する活動を取り入れ，倍関係を的確に捉えさせます。

次に，右下のように対応数直線上で，テープの長さの割合を，2倍，1.2倍，0.4倍と整数から帯小数，純小数と発展的に変化させて演算決定させる活動を取り入れます。割合が0.4倍で，基準量の１より小さくなっても，減法や除法ではなく，2倍や1.2倍の場合と同じように倍関係であることから，乗法になることを捉えさせます。



## H26算数A 4
## 単位量当たりの大きさ

１㎡当たりの人数を求める式を正しく書けるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問（２）の正答率は，全国が60.8%，岡山県が60.3%で依然として低い傾向にあり，全国平均を0.5ポイント下回っています。

単位量当たりの大きさを求める除法の式を立てることに課題があるといえます。

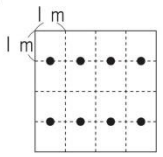
誤答については，「１人当たりの面積を求める式の「８÷16」を書いた児童が最も多く，14.6%でした。

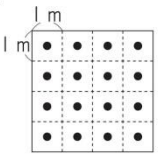
つまずきの要因としては，「８㎡」と「16人」の二つの量には着目できているものの，１㎡当たりの人数を求めるための除法の式の意味を理解できていないものと考えられます。

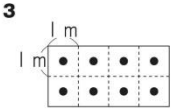
また，「４×４」や「８×２」などと立式した誤答も多く，「16人」を式で表そうとしたものと考えられます。

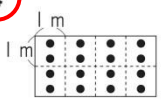
Aの部屋の1㎡あたりの人数を調べます。
Aの部屋の面積は８㎡で，部屋の中には16人います。

（１）Aの部屋の様子を表している図はどれですか。下の1から4までの中から１つ選んで，その番号を書きましょう。

1



2



3



4



（２）Aの部屋の1㎡あたりの人数を求める式を書きましょう。

**ポイント**

既習のわり算の意味と関連付けて，単位量当たりの大きさを求める式の意味が理解できるようにしましょう。

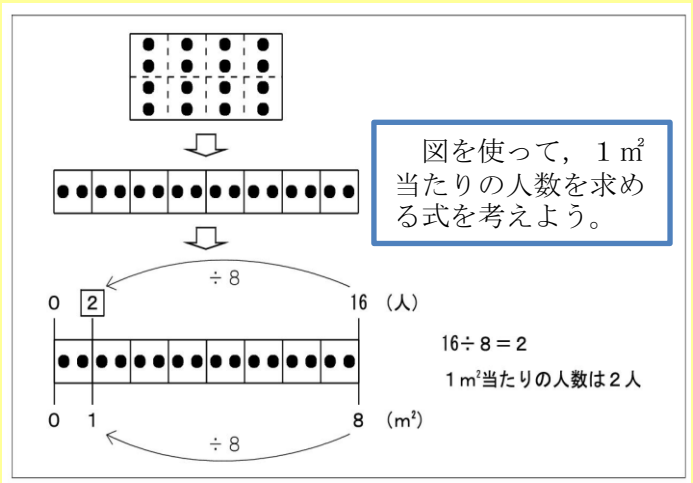
混み具合を比較する際は，面積と人数を組み合わせて捉え，二つの量の一方をそろえて他の量で比較することが必要です。その際，二つの量を図などに表し，面積と人数の関係を捉えたことを基に立式し，１㎡当たりの人数を求めることが大切です。

**活動例**

○わり算の意味と関連付けて，式の意味を理解する活動

右のように，面積と人数の関係を表した図を基に立式する活動を取り入れます。

例えば，本設問を用いて，部屋の面積と人数を表している図を変形し，１㎡当たりの人数を求めるために，１㎡の区切りに16人を平均して配分した図に直させます。そして，この図を基に，式を話し合い，16人を8等分することから「16÷８」という除法の式になり，１㎡当たりに２人いることを捉えさせます。



## H26算数A 5
## 直方体の体積の求め方

直方体の体積を正しく求めることができるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問の正答率は，全国が81.8%，岡山県が78.2%であり，全国平均を3.6 ポイント下回っています。

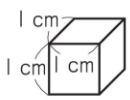
体積の単位（1 ㎤）と測定の意味を理解することに課題があるといえます。

誤答については，「80」や「50」と解答した児童が最も多く，合わせて13.2%でした。

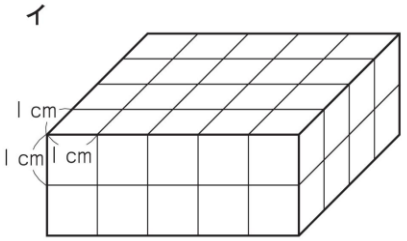
つまずきの要因としては，直方体の図から，立方体の個数の情報を誤って捉えたり，計算を誤ったりしていると考えられます。

（2）下の図のように，アの立方体を使って，イの直方体を作りました。イの体積は何㎤ですか。

ア




イ




また，底面の面積を求めて「20」と解答したり，側面の面積を求めて「10」や「8」と解答したりする誤答が次に多く，体積の意味が十分捉えられていないと考えられます。

**ポイント**

一辺が1 ㎝の単位体積の立方体を用いて，直方体の体積を測定することができるようにしましょう。

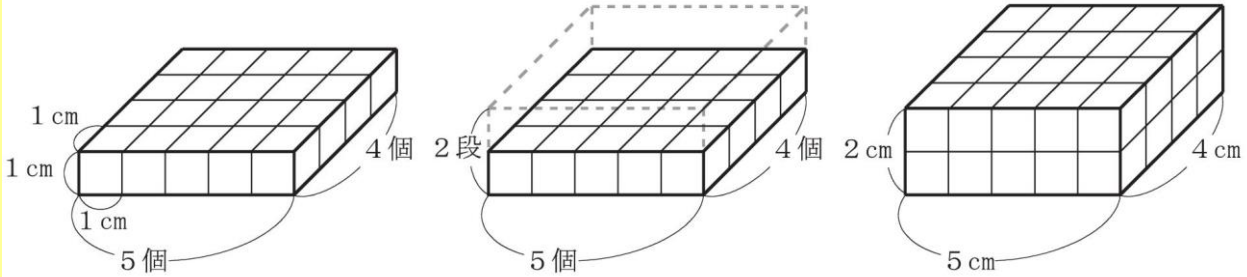
直方体の体積は，一辺が1 ㎝³の単位体積を積み重ねて様々な直方体を構成したり，その体積を測定したりして，直方体の体積について理解することが大切です。

**活動例**

○1 ㎝³の立方体を用いて直方体を構成し，体積を求める活動

下の図のように，1 ㎝³の立方体を用いて直方体を構成する活動を取り入れます。そして，構成した直方体の体積の求め方を話し合う中で，一段分を隙間なく敷き詰めた単位体積の立方体の個数が，（縦）×（横）で表されることや，その何段分あるかで体積を数値化できることを捉えさせます。

このように，1 ㎝³の立方体を用いて直方体を構成したり，体積の求め方を話し合ったりする活動から（直方体の体積）＝（縦）×（横）×（高さ）という体積を求める公式を意味付けていきます。



## H26算数A 7
## 直方体の面の形と大きさ

見取図で表された直方体の面の形を正しく捉えられるようにするためには，どうしたらいいですか？

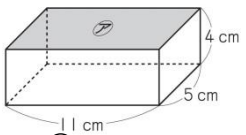
右の設問の正答率は，全国が69.4%，岡山県が65.5%であり，全国平均を3.9ポイント下回っています。

立体図形とその見取図の辺や面のつながり，位置関係を理解することに課題があるといえます。

誤答については，選択肢３「平行四辺形」と解答した児童が最も多く，27.4%でした。

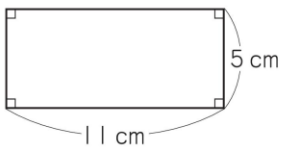
つまずきの要因としては，見取図で表された直方体から，立体としての直方体がイメージできなかったり，直方体の意味が分からなかったりしたと考えられます。

下のような直方体があります。

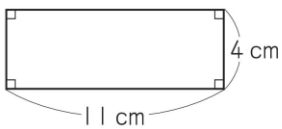



この直方体の面㋐になる四角形を，次の１から４までの中から1つ選んで，その番号を書きましょう。

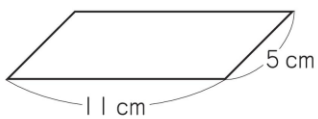
**1** 長方形



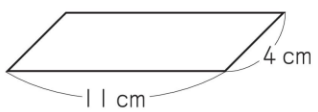

**2** 長方形




**3** 平行四辺形




**4** 平行四辺形




**ポイント**

まずは，直方体の意味を捉えさせておくことが大切です。その上で，立体図形を見取図や展開図と関連付けて対応関係を捉えることができるようにしましょう。見取図，展開図は立体図形を平面に表現するための方法です。立体図形，見取図，展開図を別々のものとして扱うのではなく，立体図形を見取図や展開図で表したり，見取図や展開図から立体図形を考えたりすることが大切です。

このことにより，辺や面の位置関係や立体図形の構成要素について理解が深まると考えられます。

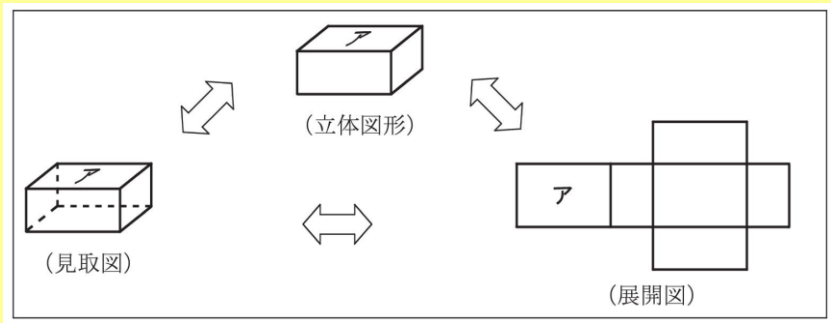
**活動例**

○立体図形と見取図を互いに関連付ける活動

まず，見取図で表された直方体について話し合い，面の形が長方形に見えない面があることや，平行な辺は平行に表されていることなどに気付かせるようにします。

次に，見取図で表された直方体を展開図で表現するときに，面の対応を調べる活動を取り入れ，面アが長方形であることを話し合います。

低学年でも，身の回りにある箱の形を用いた算数的活動を通して，図形の構成要素に着目してきています。立体図形と平面図形を関連付けて，系統的に学習できるようにします。



# ■更なる指導の改善・充実に向けて

全国学力・学習状況調査の結果から児童の課題を把握するためには，具体的にどういうことをすればいいですか？

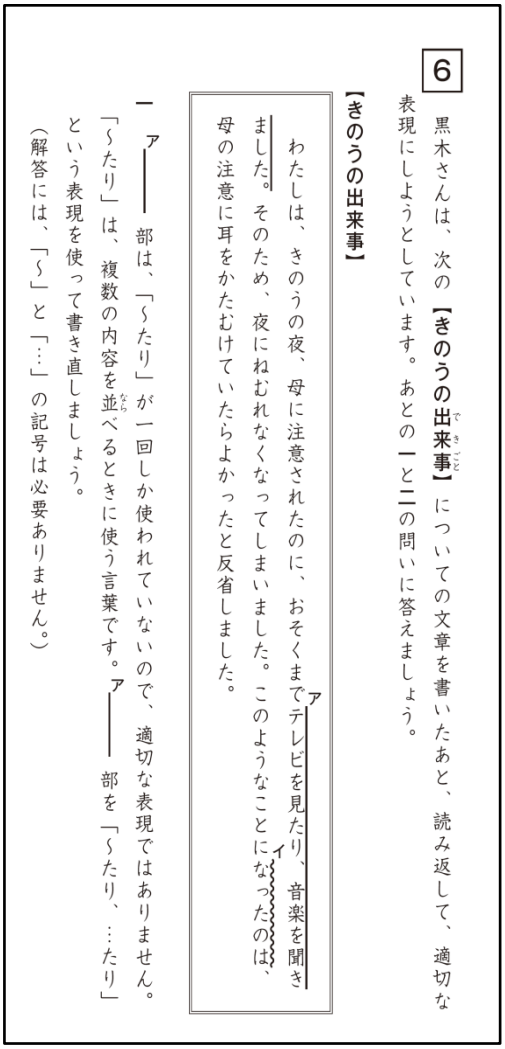
## 誤答分析により，つまずきの傾向を把握して指導改善を行う

児童一人一人の解答には「意味」があります。正答であれば，基本的にその問いに対して必要な学力を備えていることが分かりますし，無答であれば，理解の状況や時間配分，学習意欲といったそれぞれに抱える課題が推察できます。そして，指導上大きな意味をもつのが誤答です。「どのように考えたのか」「どのような間違え方をしているのか」を的確に分析すれば，そこから今後の指導の大きなヒントをつかむことができます。誤答分析には，個人の誤答から課題を明らかにする視点と誤答の反応率から集団の傾向を把握する視点が必要です。

平成25・26年度全国学力・学習状況調査国語Ａの結果をもとに説明します。

### 個人の誤答から課題を明らかにする視点

平成26年度全国学力・学習状況調査小学校国語Ａ 6 より



6 黒木さんは、次の【きのうの出来事】についての文章を書いたあと、読み返して、適切な表現にしようとしています。あとの一と二の問いに答えましょう。

【きのうの出来事】

わたしは、きのうの夜、母に注意されたのに、おそくまでアテレビを見たり、音楽を聞きました。そのため、夜にねむれなくなってしまいました。このようなことになったのは、イ母の注意に耳をかたむけていたらよかったと反省しました。

一 ア――部は、「～たり」が一回しか使われていないので、適切な表現ではありません。「～たり」は、複数の内容を並べるときに使う言葉です。ア――部を「～たり、…たり」という表現を使って書き直しましょう。
（解答には、「～」と「…」の記号は必要ありません。）

正答は，「テレビを見たり、音楽を聞いたりしました」といった記述を求めています。誤答①は，「たり」を使っていない解答です。右の誤答②は，「～たり、…たり」という形にしていない解答です。このように解答した児童は，設問で指示されている「『～たり、…たり』という表現を使って書き直しましょう」という内容を的確に捉えることができなかったものと考えられます。また，日常生活における会話や文章表現であまり使用していないこともつまずきの要因として考えられます。

**【児童の誤答①】**

一 テレビを見て、音楽を聞きました。

**【児童の誤答②】**

一 テレビや音楽を聞いたりしました。

誤答②は，動詞に着目できていないことがつまずきの要因になっています。設問として取り上げられている部分には，「テレビを見た」ことと「音楽を聞いた」ことの二つの事柄が並列で書かれています。ここでは，動詞に着目することで二つの事柄の並列関係が捉えられます。

「テレビを見た」「音楽を聞いた」 ➡ 「テレビを見たり、音楽を聞いたり」

このことを捉えた上で，設問の中に示されている「～たり，…たり」という表現を使って書き直すことが求められています。誤答②は，「見た」「聞いた」といった動詞に着目して並列関係を捉えていないための誤りと考えられます。

自校で解答の採点をする際には，正誤の判断だけでなく，不足している要素やその要素が不足したつまずきの要因を推測することが大切です。

## 誤答の反応率から集団の傾向を把握する視点

学習指導要領における領域・内容が同じ問題を過年度で比較すると，同じ分野に継続して課題があることが分かるなど，学校としての傾向がつかめることもあります。

平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語A 2 より

「石の上にも三年」の意味

1　何事もやってみないと，よさが分からないこと。
2　あることが得意な人でも，失敗することがあること。
3　住み慣れると，そこが一番暮らしやすくなること。
4　しんぼう強くやれば，よい結果が得られること。

| | 解答類型 | 反応率(%) | 正答 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 と解答しているもの | 7.9 | |
| 2 | 2 と解答しているもの | 6.1 | |
| 3 | 3 と解答しているもの | 13.4 | |
| 4 | 4 と解答しているもの | 71.3 | ◎ |
| 9 | 上記以外の解答 | 0.0 | |
| 0 | 無解答 | 1.2 | |

上記の例では，三つの誤答の反応率に偏りがあることが分かります。３と解答した児童は，「辛抱すること」と「慣れること」のニュアンスの違いを的確に捉えることをせず，字面のみから表面的に意味を類推したものと思われます。ここに誤答が集中するということからは，ことわざを場面の中で使用する経験の少ない児童が一定数存在する可能性があることが分かります。こうした分析から，ことわざや慣用句の指導に関して，意味や使い方を理解するだけでなく，自分が表現するときに用いることができるようになるための工夫が必要であることが分かります。このように，誤答の反応率の偏りは，子どもたちの思考の様子や集団としての課題を把握するのに有効です。

課題として捉えた設問について，校内研修の中で誤答分析に取り組み，児童のつまずきの傾向を全教員で共通理解することが大切です。

# ■単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実

基礎的・基本的な学習内容を定着させるための振り返り学習は，具体的にどうすればいいですか？

## （１）振り返り学習がなぜ必要か

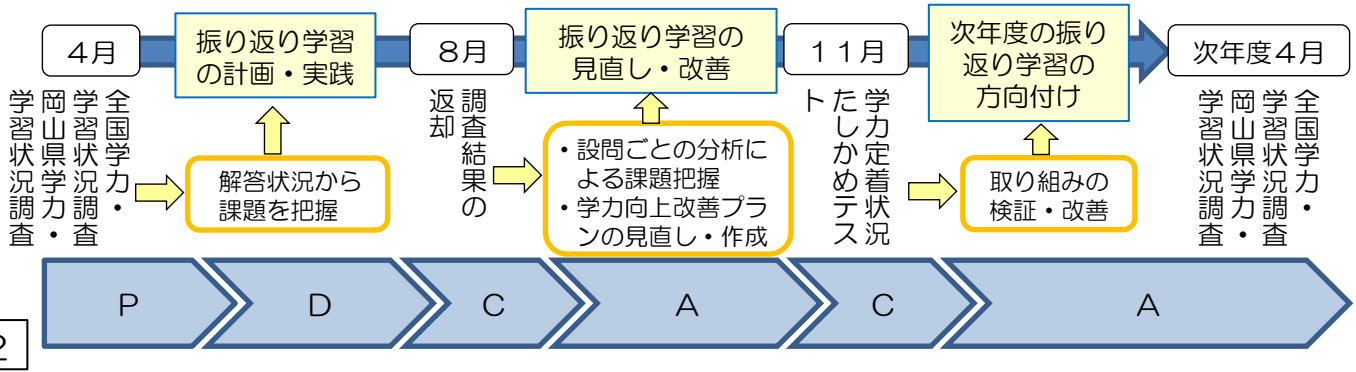
これまでの全国学力・学習状況調査において，岡山県の児童は，直前に学習した内容の設問に比べて，前学期あるいは前学年の学習内容の設問を苦手としてきました。つまり，学習内容の「習得」ができている一方で，「定着」が不十分という状況にあり，児童の学力定着のための，単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実が求められています。

| 設問番号 | 設問の概要 | 学習時期 | 岡山県正答率 | 正答率の全国との差 |
|---|---|---|---|---|
| 1(2) | 0．75＋0．9 | 小4 | 61.1 | −10.2 |
| 1(3) | 9．3×0．8 | 小5 | 84.0 | 0.3 |
| 1(6) | 2と5／7＋1と1／7 | 小4 | 82.9 | −6.0 |
| 1(7) | 2／9×4 | 小5 | 90.1 | 0.6 |

平成25年度の調査結果によると，４年生で学習する問題が全国平均を大きく下回っています。児童は，一度習得したことも，振り返りの機会がないと忘れてしまうのです。この結果を受けて，振り返り学習の充実を図る学校が増えてきました。

## （２）振り返り学習の計画・実践・見直し

朝学習・放課後学習・家庭学習の時間などを有効に活用しながら振り返り学習を充実させ，児童の学力の定着を図ることが大切です。そのためには，校内での体制づくりが必要です。全国学力・学習状況調査の結果から自校の課題を明確にした上で，自分たちの学校では，どのような体制で，どのような時間設定で，どのような内容で，どのような方法で振り返り学習を位置付けていくのか，学校全体で共通理解を図りましょう。そして，学力向上に向けた各校のＰＤＣＡサイクルに沿って，振り返り学習の計画・実践・見直しに取り組んでいきましょう。



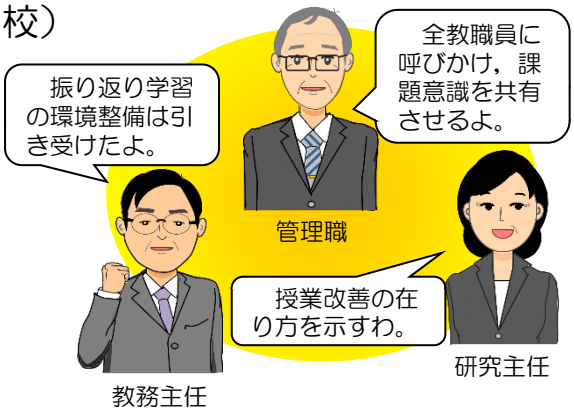
（３）取り組み事例

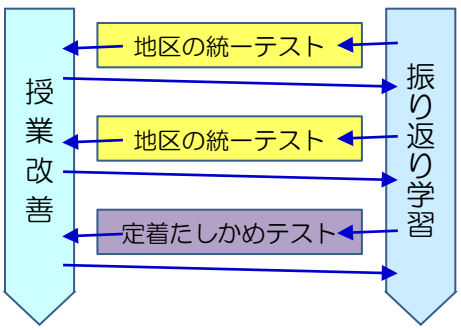
## ①振り返り学習の体制づくり

振り返り学習に「学校を挙げて取り組む」上で必要な「体制づくり」の例を紹介します。

- 「体制づくり」「計画づくり」（Ａ小学校）

「体制づくり」について，リーダーが集まり，役割分担を行いました。学校全体の取り組みにしていくために，まず，管理職が振り返り学習の目的を伝え，計画づくり，環境整備等を教務主任が行います。また，振り返り学習の基となる授業改善の方向性を研究主任が提示します。




振り返り学習の目的は，「学力の定着」にあります。そこで，「計画づくり」においては，実施の時期や内容の設定だけでなく，目的の達成状況を見測る機会の設定も大切です。こちらの小学校では，年間２回行われる地区の統一テストも含めた評価・改善を図る機会を設定しています。

### 取り組みのポイント１

<u>◎学校全体で共通理解を図りながら，体制づくり，計画づくりを行う。</u>

〇「何のために行うのか」という「目的」を明確にし，共有します。
〇管理職やミドルリーダーのリーダーシップにより体制づくりを行います。
〇やりっ放しにするのではなく，評価・改善も含めた計画づくりを行います。

- 「体制づくり」（Ｂ小学校）

学級担任だけでなく，管理職や学級担任以外の教職員も加わり，複数支援の体制を取っています。また，学習支援には，地域の方が入ったり，読み聞かせの際には，ボランティアの方が加わったりしています。

管理職や担任以外の教職員も

<u>〇学校全体での取り組みとして位置付けること！</u>　　ここをチェック！

・朝学習の指導を学級担任一人で行っていませんか。朝学習の時間は10分～15分程度です。管理職や専科教員，学習支援員等，学校全体で取り組みを強化していきましょう。登下校のサポートをしている保護者や地域の方に支援を依頼することも考えられます。個々の児童にできるだけ関わることができる指導体制になっているかどうか見直してみることが大切です。これは，朝学習に限らず，放課後学習等にも通じることです。

## ②朝学習の取り組み

前学年や，前単元までの基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる朝学習の例を紹介します。

- 「朝学習のきまり」（C小学校）

～朝学習のきまり～
1　実施日　毎週　火曜日～金曜日
2　時　間　8：20～8：30（10分間）
3　内　容　火・水・金…学習
　　木…読書

以前は，職員朝礼の時間に「朝自習」を行っていましたが，職員朝礼を終礼に切り替えて，学級担任の指導の下，「朝学習」を始めるようになりました。

- 「朝学習の流れ」「朝学習の内容」（C小学校）

～朝学習の流れ～
1　教材・プリントを机上に置いて準備する。
2　問題を解く。
3　答え合わせをする。（できれば各自。低学年は学級担任で。）
4　解き直しをする。早くできた児童は，ドリル学習や自習をする。

～朝学習の内容（2学期　10月の例）～
1年生……（前半）くっつき・促音，拗音　（後半）漢字
2年生……（前半）言葉のきまり　（後半）計算
3～6年生…（前半）計算　（後半）漢字

### 取り組みのポイント2

◎決まりきった内容をこなすのではなく，「意図をもった指導」にする。
○つまずきの見られる児童には，教師が意図をもって指導を行うようにします。
○「地道な繰り返し」によって，「できる自分」を認められるようにします。
○内容については，平板なものにならないよう変化をもたせるようにします。

- 「朝学習のきまり」（A小学校）

～朝学習のきまり～
1　実施日　毎週　火曜日～金曜日
2　時　間　8：10～8：25（15分間）
3　内　容　火…読み聞かせ
　　水・木・金…漢字，計算

「みんなができるものは必ずできるようにしよう」の呼びかけの下，漢字，計算については，過去の問題により徹底的な繰り返し学習が行われています。

- 「朝学習の実際」（A小学校）

今日はこのプリントをしよう

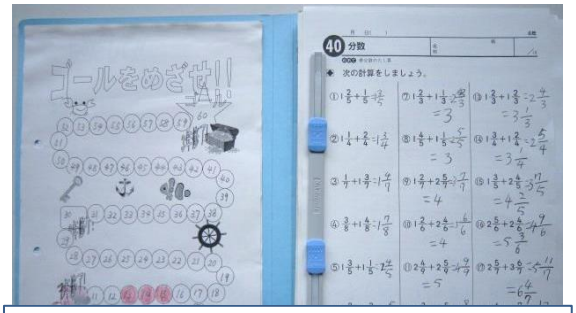
集中した雰囲気の中で学習

全員で答え合わせ

## ・がんばりカードによる「着実な積み上げ」（B小学校，C小学校）

「地道な繰り返し」によって基礎・基本の「着実な積み上げ」が図られていることを児童が自覚できるようにすることが大切です。

B小学校では，右図のような「プリントファイル」によって，児童が自らの到達状況や課題を確認できるようにしています。




朝学習の履歴を記した「プリントファイル」

| 学年 | | 単元名 | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4年 | 1 | 整数のかけ算3位数以上 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 |
| | 2 | 整数のわり算2位数以上 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 |
| | 3 | 式と計算（整数） | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 |
| | 4 | 小数のかけ算 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 |
| | 5 | 小数のわり算 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 |
| | 6 | 仮分数を帯分数で表す | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 | ／ 時 |

「内容の系統」を考慮したプリントの構成

「着実な積み上げ」については，「朝学習のきまり」など先に示した「枠組み」も大切ですが，「内容の選定」が，かぎになります。C小学校では，補充学習において，各教科の年間指導計画を踏まえ，前学年の内容や，同領域の前単元の内容など，「内容の系統」を考慮した取り組みを進めています。

## 取り組みのポイント３

◎「基礎・基本の着実な積み上げ」が児童に自覚できるようにする。

〇確かめプリントの実施により，それぞれの児童に自分の課題を把握させます。
〇前学年や前学期の内容など，課題にあった学習内容を取り入れます。
〇各自で答え合わせ・自己評価させるとともに，教師も積極的に評価します。

## ・「着実な積み上げ」（A小学校）

「着実な積み上げ」については，教師もこまめに児童の実態を把握し，課題の解決に努めなければなりません。そこで，児童の到達状況を把握する「個人カルテ」を作成し，日々の授業により課題解決を図っています。

1年の計算

| 計算の内容 | 1回目 | 2回目 |
|---|---|---|
| ① たし算 | ○ | 0 |
| ② たし算のくり上がり | ○ | 0 |
| ③ たし算のくり上がり | ○ | 0 |
| ④ 0のたし算 | ○ | 0 |
| ⑤ ひき算 | ○ | 0 |
| ⑥ ひき算のくり下がり | ○ | 0 |
| ⑦ ひき算のくり下がり | ○ | 0 |
| ⑧ 3つの数のたし算 | ○ | 0 |
| ⑨ 3つの数のひき算 | ○ | 0 |
| ⑩ 加減混合 | ○ | 0 |
| 点数 | 100 | 0 |

2年の計算

| 計算の内容 | 1回目 | 2回目 |
|---|---|---|
| ① 2けた−1けた | ○ | 0 |
| ② 2けた−1けた | ○ | 0 |
| ③ 3けた−2けた | × | 0 |
| ④ 2けた−2けたの筆算 | ○ | 0 |
| ⑤ 3けた−2けたの筆算 | × | 0 |
| ⑥ 九九 | ○ | 0 |
| ⑦ 九九 | ○ | 0 |
| ⑧ 和の筆算 | ○ | 0 |
| ⑨ 差の筆算 | ○ | 0 |
| ⑩ 3つの数のたし算の筆算 | ○ | 0 |
| 点数 | 80 | 0 |

3年の計算

| 計算の内容 | 1回目 | 2回目 |
|---|---|---|
| ① 4けた+4けたの筆算 | × | 0 |
| ② 1000からひく筆算 | ○ | 0 |
| ③ 2けた×1けた | ○ | 0 |
| ④ 2けた×1けた | × | 0 |
| ⑤ わり算 | ○ | 0 |

4年の計算

| 計算の内容 | 1回目 | 2回目 |
|---|---|---|
| ① 小数+整数 | × | 0 |
| ② 整数−小数 | × | 0 |
| ③ 小数+小数 | ○ | 0 |
| ④ 小数−小数 | × | 0 |
| ⑤ 4けた×3けた | × | 0 |

児童の到達状況を把握する「個人カルテ」

## 〇課題に基づく指導内容を取り入れること！　ここをチェック！

・決まりきった内容を，ただこなしているだけになっていませんか。児童の抱えている課題に焦点を当てた内容に取り組むことが学力向上への近道です。全国学力・学習状況調査の結果分析から捉えた課題については調査対象学年に限らず，関係する内容を意図的にどの学年でも指導内容に取り入れ，朝学習等の時間を使って克服していきましょう。調査問題の学習プリントは，義務教育課作成の春チャレンジ・夏チャレンジ問題が Webページに掲載されており，すぐに活用できます。

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/322/

## ③放課後学習の取り組み

基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる放課後学習の例を紹介します。

### ・「担任以外との協力体制」（D小学校）

担任以外の教職員も加わった個別の支援の様子

©岡山県「ももっち」

学級全員を対象に，学級担任と担任以外の教職員が協力しながら指導をしています。

～放課後学習のきまり～

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 実施日 | 毎週　月・火・金 |
| 2 | 時　間 | 帰りの会終了後20分間 |
| 3 | 内　容 | 復習を主にした学習 |
| 4 | 対　象 | 学級全員 |



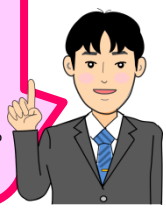
### 取り組みのポイント４

<u>◎担任以外の教職員や地域の学習サポーターとの協力により，児童の学習支援を行う。</u>

〇それぞれの役割分担を明確にします。

〇地域の学習サポーターは，児童を励ますことで学習の習慣付けを行います。

〇教師は，プリントの採点により，つまずきを把握し，克服に努めます。



### ・「地域との協力体制」（E小学校）

支援が必要な児童に参加を働きかけ，担任以外の教員や地域の学習サポーターが指導をしています。

©岡山県「ももっち」

～放課後パワーアップ教室のきまり～

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 実施日 | 毎週　火・木 |
| 2 | 時　間 | 15：50～16：40（50分間） |
| 3 | 内　容 | 宿題，算数プリント |
| 4 | 対　象 | 希望者（児童，保護者と相談） |

地域の学習サポーターによる個別支援の様子

### ・「地域との協力体制」（Ｆ小学校）

希望する児童を町民センターに集めて放課後学習を進めています。指導者は，町職員の方，高等学校の生徒，地域ボランティアの方等，たくさんの方に協力していただいて，きめ細かな指導体制をつくっています。

©岡山県「ももっち」

～放課後学習のきまり～

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 実施日 | 毎週　月・木 |
| 2 | 時　間 | 17：00～18：00（１時間） |

高等学校の生徒による個別支援の様子

### 〇学級担任と担当者の連携を強化すること！　ここをチェック！

・放課後学習では，学級担任が中心となって他の教員や地域の学習サポーター等と連携を取りながら行う場合と，学級担任が指導に関わらない場合とがあることでしょう。いずれの場合も，学級担任が，指導に関わる方々に，参加している児童の学習状況について伝える場を設けることが必要です。それにより，児童の抱えている課題に合った学習内容に取り組ませたり，学習状況に合った支援を行ったりすることができるようになります。学習状況に合った支援が，児童の基礎・基本の着実な積み上げにつながります。

## ・個に応じた学習プリントによる「着実な積み上げ」（E小学校）

学習の進め方 平成26年５月

<u>パワーアップ教室のねらい</u>
・自分から宿題ができるようになる。
・プリントを使って自分で学習ができるようになる。

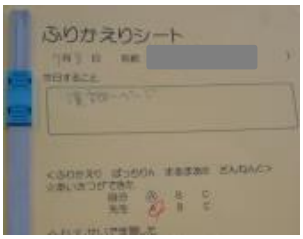
<u>はじまるまで</u>
・あいさつをして教室に入りましょう。
・ランドセルは机の右にかけましょう。
・早く来た人から「ふりかえりシート」にその日にしたいことを書いておきましょう。

※時間をむだにしないため，宿題を始めておきましょう。

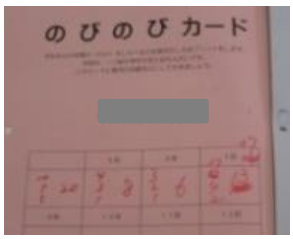
（後略）

単元別確認プリント

個人ファイルと合格シール




ふりかえりシート




月ごとに結果を記録するのびのびカード



## 取り組みのポイント５

<u>◎「繰り返し」と「確かめ」により，「基礎・基本の着実な積み上げ」を行う。</u>

〇個に応じた学習プリントを選択できるようにしています。
〇定着するまで何度でも繰り返して取り組めるようにしています。
〇個別ファイルを作成していつでも学習の振り返りができるようにしたり，毎月確かめプリント（前学年のまとめ問題）に全員で取り組ませたりしています。

## ・つまずきを解消しながら「着実な積み上げ」（D小学校）

全教職員が使用できるように，教材保管場所を作っています。

個別ファイルで学習の記録を残し，いつでも振り返りができます。

答え合わせをして，できていなかった箇所を練習します。

<u>〇一人一人のつまずきを確実に解消すること！</u>　　ここをチェック！

・学習の場の提供だけで満足していませんか。放課後学習の目的は，児童の抱えている学力的課題を解決することにあるはずです。そのためには，どのような児童を対象にするかが大切なポイントとなります。学校や学級の状況に応じて，特に大きな課題を抱えている児童を対象として進めることも考えられます。その上で，朝学習とは異なる長い時間設定の中で，つまずきのある内容から徐々にステップアップして，確実に定着するまでの徹底した指導が大切になります。定着できたかどうかについては同じ内容の問題を繰り返し行い，随時確かめていくことが必要です。

## ■設問別に見る学習指導方法の工夫（国語）

**H26国語A 6**

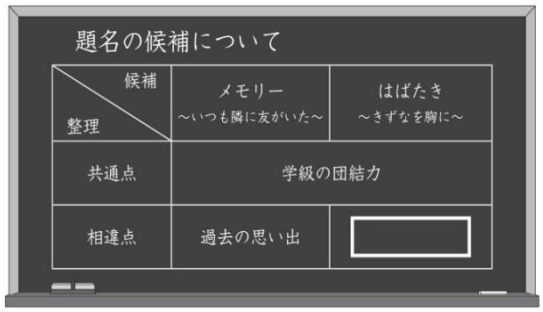
**話し合いを整理する**

複数の案から一つに絞り込む話し合いを行うことができるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問は，全国と比較して正答率，無解答率とも差が大きく見られた問題です。卒業文集の題名を「メモリー」「はばたき」のどちらにするか決めるために話し合う場面で，「はばたき」を推薦している高橋さんの発言内容を使って□を書く問題です。

正答率は，岡山県は51.5%，全国は54.3%でした（正答は「未来の姿」など）。誤答としては，高橋さんの発言を使ってはいるものの相違点ではない「私たちの姿」「何事も団結」等の解答が見られました。

このような「話すこと・聞くこと」の力は実際の話し合う活動の中で育成すべきものですが，学校質問紙の「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか」に対し，全国では肯定的回答が81.5 %，岡山県では75.5%であったため，設問のような「話すこと・聞くこと」の授業が比較的行われていない傾向にあるといえます。




【黒板】

高橋さんの発言

「はばたき～きずなを胸に～」を推薦する理由は二つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、何事も団結して取り組んだ学級のことが「きずな」という言葉に込められているからです。

**【黒板】**にある相違点の欄の□に当てはまる言葉を、高橋さんの発言の中にある言葉を使って、**六字以内**で書きなさい。

**ポイント**

話し合いは，話し合う価値がある話題かどうかを検討し，適切に設定してから始める必要があります。その上で，自分の意見をもたせてから取り組むことが大切です。

複数の案を一つに絞る話し合いの場合は，図表を用いるなどして，共通点や相違点など様々な観点に沿って視覚化しながら，発言を整理することが必要です。その際，どのような観点で，どのような図表を活用するのが有効かを考えることも大切です。

**活動例**

○図表を用いて観点を整理しながら話し合いを進める活動

単元名　図書館のキャラクターを決めよう

第１時　候補に挙がったキャラクターの特徴について，グループで意見を出し合う。

第２時　出された意見について，どのような観点で整理すればよいかを考え，それらの意見を図表に整理する。

第３時　グループごとに整理した図表を提示しながら，目的に合わせてどのような観点で整理し，結論を導いたのか発表する。

○ＩＣＴを活用した活動

話し合いモデルの動画を示して，方法やポイントを全員で共有して取り組ませる。

## H25・26国語A 8
漢字を読んだり書いたりする

文脈に即して漢字を読んだり書いたりするためには，どうしたらいいですか？

右の設問は，ここ２年間の漢字の読み書きで正答率の低かったものです。読みについては，「風刺」を「ふうさつ」「ふうさ」などと読んでいる誤答が多く，書きについては「きん」を「近」，「けい」を「経」「形」，「しょう」を「紹」「召」などと書いている同音異字の誤答が多く見られました。

漢字が正しく読めない要因としては，授業や日常生活において，誤った読みを見過ごしている状況や，音声を伴わない機械的な漢字練習などが考えられます。

〈平成25年度〉
- 社会を風刺する。
  →県66.8%　全国70.6%
- おやつをきんとうに分け合う。
  →県56.5%　全国59.3%

〈平成26年度〉
- 円のはんけいを求める
  →県55.9%　全国59.5%
- 地域の人をしょうたいする。
  →県59.0%　全国57.6%

書けない要因としては，目的や相手を明確にした書く活動や，表記の観点から書いた文章を見直す活動などを通した漢字を正確に書こうとする学習経験の少なさが考えられます。また，漢字練習自体が目的化し，覚える意識が低い可能性もあります。

**ポイント**

漢字を読むことの指導においては，音声化して読み合ったり，文脈の中で意味を理解しながら読ませたりすることが大切です。書くことの指導においては，字形や画数，読みや意味などの基本的な事項を確実に指導し，実際に文章の中で書かせる必要があります。

漢字に対する意識を高めるためには，漢字練習の繰り返しとともに，読みや書きに焦点を当てた振り返りをさせたり，文章を書く際に相互に読み合ったりして，漢字に注目させるような取り組みを行う必要があります。

**活動例**

○振り返りをすることで定着を図る活動

１単位時間や１単元の後，学習に出てきた漢字で，日常で使用頻度の少ない漢字，形が似ていたり，へんやつくりが共通して間違いやすい漢字等を振り返らせ，覚えておきたい漢字一覧を作らせる。そして，紹介し合うことを通して覚えておきたい漢字を確認し，定着を図る。

○一年間の振り返りに各教科の教科書を使い，常用漢字の習得を図る活動

単元名　「学習語句集」を作り，「常用漢字」を習得しよう

第１時　「常用漢字」について知る。

第２時　グループでその学年の各教科の教科書を分担し，教科特有の漢字を選び，「学習語句集」を作成する。

第３時　選んだ学習語句の読みと書きを確認し，「学習語句集」をクラスで紹介し合う。

## H26国語A 8

辞書を活用して語句の意味を書く

辞書を使って適切に調べたり，的確に意味を捉えたりできるようにするためにはどうしたらいいですか？

林さんは、**【読んでいた本の一部】**の――線部「英気を養う」の意味が分からなかったので、国語辞典で調べました。あとの**【国語辞典】**に載っている「英気」と「養う」を説明している言葉をそれぞれ使って、「英気を養う」の意味を書きなさい。ただし、「英気」については①と②のどちらかの説明、「養う」については①から③のいずれかの説明を選び、その言葉を使いなさい。

**【読んでいた本の一部】**
十分に休養を取ったので、明日の英気を養うことができた。

**【国語辞典】**
えいき【英気】〈名〉①すぐれた才気。②活動する気力。
やしな・う【養う】〈他動・五段〉①衣食など、生活の面倒をみる。②餌を与えて動物を飼う。③体力・気力などを少しずつ作り上げる。

右の設問は，平成26年度国語Ａで正答率，無解答率とも全国平均との差が非常に大きかった「英気を養う」の意味を書く問題です。解答類型から岡山県では，どのような課題が見られるのか把握していきましょう。

| 解答類型 | 岡山県 | 全国 |
|---|---|---|
| 1（正答） | 56.6 % | 59.9 % |
| 9（誤答） | 14.8 % | 12.3 % |
| 0（無解答） | 16.5 % | 12.3 % |

正答するためには，「英気」の意味より解答②，「養う」の意味より解答③を選択する必要がありますが，岡山県の生徒は解答②と③の両方，もしくは片方を使っていない類型９の反応率が高い傾向にあります。これらの解答には，「すぐれた才気で，衣食など生活の面倒をみる」などの記述が見られ，文の前半「十分に休養を取ったので」という内容を踏まえていない実態がうかがえます。

小学校から国語辞典を活用しているにも関わらずこのような実態が見られるのは，調べること自体が目的化しており，文や文章の理解のために，語句の正確な意味を文脈に応じて的確に把握しようという意識が低いと考えられます。

**ポイント**

日常生活や学習の中で意味や使い方の分からない語句があったときには，積極的に国語辞典を引くように指導することが大切です。その際，既存の知識の中から意味を推測し，語句を調べた上で，文脈に合っているかを検討させることが必要です。また，推測したり調べたりしたことを友達に紹介する等の活動をするとより効果的です。そして，複数の単語が合わさった場合，意味の理解にも留意して指導する必要があります。

**活動例**

○調べた意味を友達に紹介する活動

教科書の中に出てくる難しい語句を抜き出し，意味を推測する。そして，推測した意味を友達に紹介する。次に，国語辞典を使って調べ，文脈に当てはめて意味を確認する。最後に，調べた意味とその意味を取り上げた理由を説明し合う。

○作った短文を辞書で確認する活動

教科書の中に出てくる難しい語句を使って短文を作る。そして，短文が適切であるか意見交換を通して検討する。最後に，辞書で意味や用例を調べ，語句が適切に使われているか確認する。

## H26国語A 8

古典と昔話を対応させて読む

古典の文章を進んで読み解けるようにするためには，どうしたらいいですか？

右の設問は，平成26 年度国語Ａで正答率，無解答率とも全国平均との差が大きかった古典と昔話（現代語訳）が交じった文章の［　　］を書く問いです。正答率は岡山県67.9%，全国71.0%でした。

問題に使われている古典の部分は，始めと終わりのわずかな量であり，ほとんどが昔話です。しかも，古典中の言葉を答えることになりますが，正答の「ねずみ」という解答は，現代語でも古典でも変わりません。また，問題文は「『ねずみの婿取り』という昔話です」とあります。そのため，比較的容易な問いに見えますが，無解答率は 11.5%であり，国語Ａでは２番目に高くなっていました。

無解答率から，生徒は内容を理解した上で古典中の言葉を答えることに難しさを感じ，解答する意欲が低くなってしまった可能性があります。昔話は，漫画やアニメ，読み聞かせなどで幼いころから多くの生徒が，楽しんだり親しんだりしてきているものですが，古典の文章になった時に難しさを感じるのは，授業における古典との出会い方や学び方に原因があるかも知れません。

**【昔話】**「ねずみの婿取り」

ねずみの、むすめをまうけて、娘のためにすばらしい婿を迎えようと思いました。ねずみは、世の中を照らしている太陽がすばらしいと思い、太陽を訪ねました。ところが太陽は「私は、世の中を照らす力はあるけれども、雲によってその力はなくなってしまう。雲を婿にしなさい。」と言いました。ねずみは、雲のところに行きました。すると、（中略）そして、ねずみは土塀に会いに行きました。そして、これまでのいきさつを話すと、土塀は、「私は、風ではびくともしないけれども、ねずみにかじられたらひとたまりもない。」と言いました。

さては、［　　］は何にもすぐれたるとて、［　　］を婿にとりけり。

**【昔話】**の中の二つの［　　］には、同じ言葉が入ります。［　　］に当てはまる言葉を**【昔話】**の中から探し、**抜き出し**なさい。

**ポイント**

伝統的な言語文化の指導においては，歴史的仮名遣いの読みや語句の意味，内容を伝えるだけでなく，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域を通して指導し，古典を楽しんだり，親しんだりする態度の育成が望まれます。教材としては，原文に加え，現代語訳，古典について解説した文章などを取り上げる必要があります。問題文のように古典と昔話をつなげている文章は，古典を身近に引きつけ興味・関心をもたせるには効果的な教材といえます。

**活動例**

○昔話と古典の現代語訳を結びつけて紹介する活動

単元名　昔話のルーツを紹介しよう～古典の様々な作品について知る～

第１時　五つの昔話の大まかな内容を理解し，取り組んでみたい作品を決める。

第２時　昔話の絵本と，元となった古典の現代語訳，関連する本を読み，紹介したい内容についてまとめる。

第３時　グループで紹介したい内容を決め，練習をする。

第４時　グループの紹介を聞き合い，感想を交流した上で，古典について分かったこと等を振り返る。

## H26数学A 2
### 不等式を使った大小関係の表現

不等式を使って数量関係を正しく表すことができるようにするためには，どうしたらいいですか？

（1）「プールの水の深さは120 cm 以下である」という数量の関係を，プールの水の深さを $x$ cm として不等式で表しなさい。

上の設問の正答は「$x \leqq 120$」です。正答率は全国が45.2%，岡山県が46.6%です。全国より岡山県の方が正答率が高くなっていますが，「数と式」の領域の中では最も正答率の低い設問で，数量の大小関係を不等式に表すことに課題があるといえます。

誤答の中では，「$x < 120$」と解答した割合が一番高く，15.1%でした。つまずきの要因としては，「120㎝以下」と「120㎝未満」という言葉の意味の違いを不等号「≦」「＜」で表現することを理解していないことが考えられます。

**ポイント**

比べようとする2つの数量に着目し，それらの間の大小関係を適切に捉えることで，不等号を使って正しく表現できるように指導することが大切です。

**活動例**

○大小関係を適切に把握する活動

本設問を使って授業を行う際には，「プールの水の深さ$x$ ㎝」と「120㎝」に着目し，「深さは120㎝以下である」から「$x$は120より小さいか等しい」と捉え，このことを不等号を用いて「$x \leqq 120$」と表す活動が考えられます。

## H25数学A 2
### 数量を表す文字式

単位量当たりの大きさを文字式で正しく表すことができるようにするためには，どうしたらいいですか？

（3）$a$ m の重さが $b$ g の針金があります。この針金の 1 m の重さは何 g ですか。$a$，$b$ を用いた式で表しなさい。

上の設問の正答は「$b/a$」です。正答率は全国が32.3%，岡山県が31.6%で，数量の関係や法則などを文字式で表すことに課題があるといえます。

誤答の中では，「$a/b$」と解答した割合が13.6%で一番高く，次いで「$ab$」の13.5%でした。つまずきの要因としては，問題文に登場する順に除法をすればよいと捉えていたり，単位量当たりの重さを求めるには除法を用いるということを理解できていなかったりしたことが考えられます。

**ポイント**

事象における数量の関係を文字に表す場合には，まず，数量の関係を図などに表したり，具体的な数に置き換えたりして，関係を的確に捉えさせることが大切です。その上で，数量の関係を文字を使って表すことができるようにします。

**活動例**

○具体的な数に置き換えて，文字式で表す活動

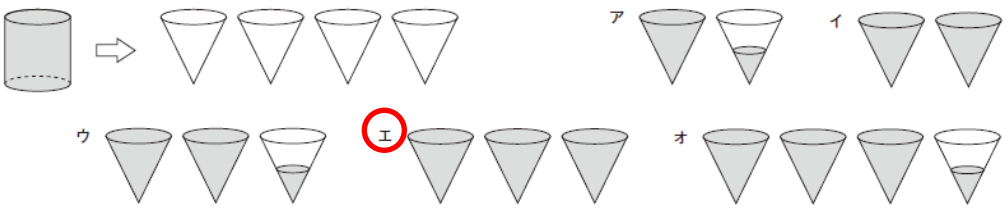
本設問を使って授業を行う際には，文字で扱うだけでなく，「$a$m」，「$b$kg」を具体的な数に置き換えて考える活動を取り入れることが考えられます。その際，8mのときに4kg，4mのとき2kgなどを取り上げながら，1mの重さが言葉の式「（重さ）÷（長さ）」で表されることを確認した上で，二つの数量の関係を文字式で表すことができるようにします。

## H26数学A 5
## 円柱と円錐の体積の関係

円柱と円錐の体積の関係を正しく捉えることができるようにするためには，どうしたらいいですか？

下の図は，円柱，円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で，高さは等しいことがわかっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。

このとき，下の**ア**から**オ**までの中に，円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを１つ選びなさい。




上の設問の正答率は全国が38.5%，岡山県が35.8% です。円錐の体積を，底面が合同で高さが等しい円柱の体積と関連付けて理解することに課題があるといえます。

誤答の中では，「イ」を選択した割合が一番高く35.0% です。つまずきの要因としては，円柱と円錐の立面図から長方形と三角形の面積比で判断したことが考えられます。

小学校で学習した三角形の面積を求める公式との混同を避けるためにも，実感を伴って理解することができるような活動を取り入れることが考えられます。

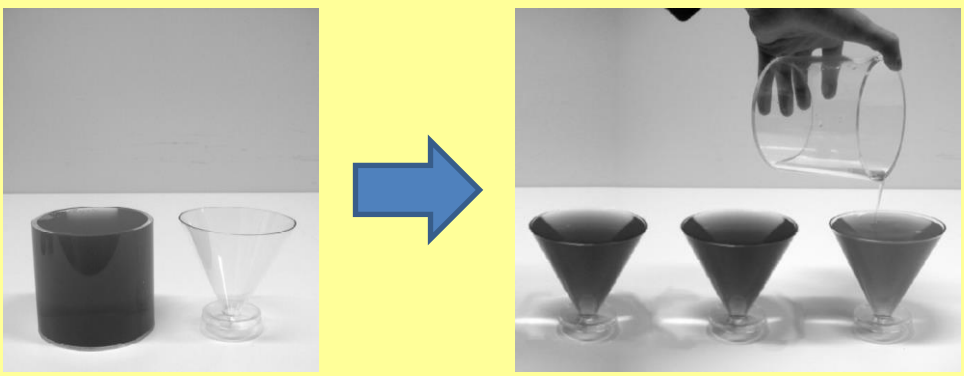
**ポイント**

「結果を予測し理由を述べる」「予想が正しいかどうかを模型等を使った実験や操作を行って確かめる」「結果を考察しまとめる」といった活動を取り入れることが考えられます。こうした活動を通して，柱体と錐体の体積の関係を実感を伴って理解できるように指導することがポイントです。

**指導例**

○円柱の容器に入った水を円錐の容器に移す活動

本設問を使って授業を行う際には，底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係を予想する場面を設定し，体積の比が２：１や３：２，３：１になるなどの予想を取り上げ，それらの予想が正しいかどうかを，円柱の容器に入った水を円錐の容器に移して確かめる活動を取り入れることが考えられます。また，ICT機器を活用して，動画を提示することも効果的であると考えられます。



「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書 中学校数学」 P.59より

# H26数学A 11
## 変化の割合

一次関数の変化の割合を表から読み取ることができるようにするためには，どうしたらいいですか？

下のアからエまでの表は，$y$ が $x$ の一次関数である関係を表しています。この中から，変化の割合が２であるものを１つ選びなさい。

ア

| $x$ | $\cdots$ | $-3$ | $-2$ | $-1$ | $0$ | $1$ | $2$ | $3$ | $\cdots$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $y$ | $\cdots$ | $-2$ | $-1$ | $0$ | $1$ | $2$ | $3$ | $4$ | $\cdots$ |

イ

| $x$ | $\cdots$ | $-3$ | $-2$ | $-1$ | $0$ | $1$ | $2$ | $3$ | $\cdots$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $y$ | $\cdots$ | $-3$ | $-1$ | $1$ | $3$ | $5$ | $7$ | $9$ | $\cdots$ |

ウ

| $x$ | $\cdots$ | $-6$ | $-4$ | $-2$ | $0$ | $2$ | $4$ | $6$ | $\cdots$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $y$ | $\cdots$ | $-4$ | $-3$ | $-2$ | $-1$ | $0$ | $1$ | $2$ | $\cdots$ |

エ

| $x$ | $\cdots$ | $-6$ | $-4$ | $-2$ | $0$ | $2$ | $4$ | $6$ | $\cdots$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $y$ | $\cdots$ | $-7$ | $-4$ | $-1$ | $2$ | $5$ | $8$ | $11$ | $\cdots$ |

上の設問の正答率は全国が47.3%，岡山県が43.3%です。一次関数の表において，変化の割合の意味の理解に課題があるといえます。また平成25年度調査では「表から変化の割合を求める」設問が出題され，岡山県の正答率は39.2%でした。改善の傾向は見られるものの，引き続き課題が残っていると分析できます。

誤答の中では，「ウ」を選択した割合が一番高く 23.2%です。つまずきの要因としては，表の上段が $x$，下段が $y$ であることから変化の割合を（$y$ の増加量）分の（$x$ の増加量）と捉えていることが考えられます。

変化の割合を求める公式を理解させるだけではなく，「$x$ の値が１だけ増加したとき，対応する $y$ の値がどれだけ増加するかを表している」という変化の割合の意味についても定着させることができるような活動を取り入れることが考えられます。

さらに，変化の割合が一次関数の式 $y = ax + b$ の $a$ であることや，グラフにおける傾きを決めるものであることも，関連付けて指導することが重要です。

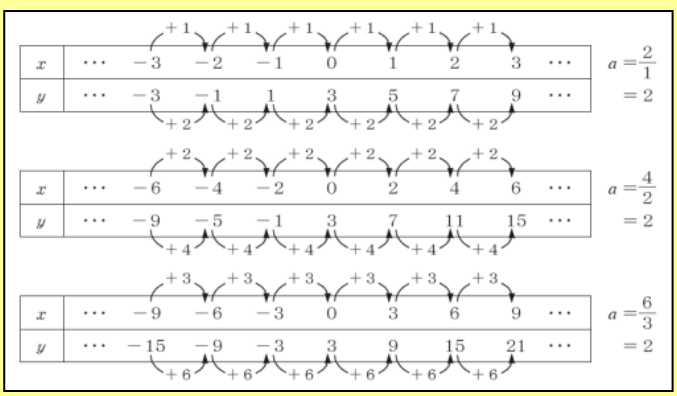
**ポイント**

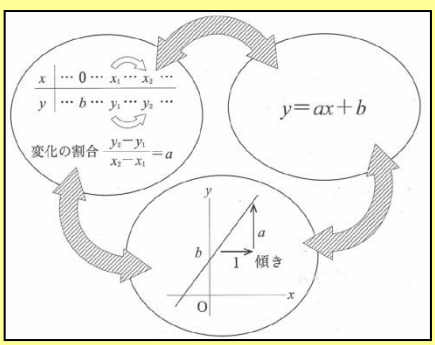
表における $x$，$y$ の値の変化の様子を調べることで，変化の割合の意味を理解できるよう工夫して指導することが大切です。

**活動例**

○表を使って変化の割合を調べる活動

一次関数 $y = 2x + 3$ について，$x$の値を１，２，３ずつ増やした表をつくり，それぞれの表において $y$ の増加量を調べる活動を取り入れ，変化の割合が，$x$ の増加量が１以外の場合でも（$x$ の増加量）分の（$y$の増加量）で求められることを理解させることが考えられます。また，一次関数の変化の様子を表，式，グラフで捉えさせたり，それらを相互に関連付けることで理解を深めさせたりする活動を行います。




「中学校学習指導要領解説数学編」P.99より

# H26数学A 13
## 相対度数の求め方

度数分布表から相対度数を求めることができるようにするためには，どうしたらいいですか？

ある中学校の３年生に対して，通学時間を調査しました。右の度数分布表は，その結果をまとめたものです。

30分以上40分未満の階級の相対度数を求めなさい。

| 階級（分） | 度数（人） |
|---|---|
| 以上　未満<br>0 ～ 10 | 5 |
| 10 ～ 20 | 9 |
| 20 ～ 30 | 14 |
| 30 ～ 40 | 18 |
| 40 ～ 50 | 11 |
| 50 ～ 60 | 3 |
| 合計 | 60 |

３年生の通学時間

上の設問の正答は「0. 3」です。正答率は全国が 42.7%，岡山県が 40. 6%です。与えられた度数分布表について，ある階級の相対度数を求めることに課題があるといえます。また，平成 25年度調査では「与えられたヒストグラムについて，ある階級の相対度数を求める」設問が出題され，岡山県の正答率は 23. 3%でした。改善の傾向は見られるものの，引き続き課題が残っていること，そして，度数分布表よりヒストグラムから相対度数を求めることに課題があることの２点が経年比較で明らかになりました。

誤答の中では，「18」と解答した割合が一番高く，22.6%です。つまずきの要因としては，度数分布表の「30分以上40分未満」の階級に含まれる度数をそのまま解答したことが考えられます。

「大きさの異なる二つの資料の傾向は各階級の度数で単純に比べることができない。このような場合，相対度数を用いることで総度数に対する割合が明らかになり，比較が可能となる。」という相対度数の必要性を，実感を伴って理解させることができるような活動を取り入れることが必要と考えられます。

**ポイント**

まずは「全体（総度数）に対する部分（各階級の度数）の割合を示す値であり，（各階級の度数）÷（総度数）で求められる。」という相対度数の意味を確実に理解させることが重要です。

その上で，大きさの異なる二つの具体的な資料を実際に比べることで，相対度数の必要性について実感を伴って理解を深めることができると考えられます。

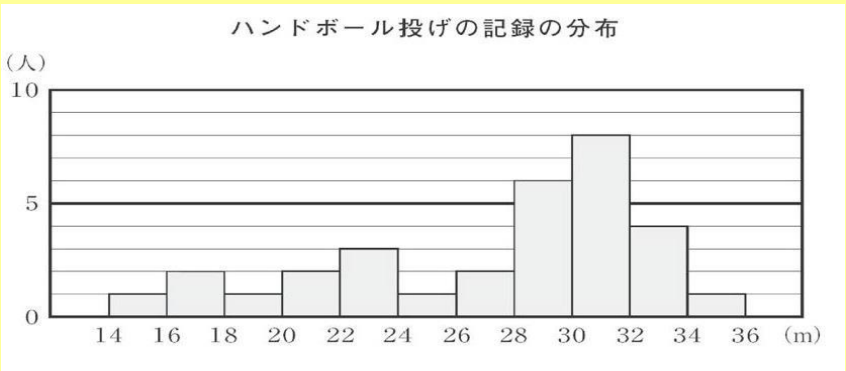
また，相対度数を用いることで，ある階級以上（以下）の全体に占める割合が分かりやすくなったり，第２学年で学習する「確率」の基礎になったりすることも考慮して指導することが大切です。

**活動例**

○全体の度数が異なる二つの資料を比べる活動

本設問を使って授業を行う際には，3年生の通学時間の傾向と，自分の学級や学年，学校など総度数の異なる集団の通学時間を比較する活動を取り入れ，通学時間が30分未満の生徒の相対度数などを求めて説明に用いることができるようにします。

さらに，度数分布表から相対度数を求める学習を行った後に，右のようなヒストグラムを与え，相対度数を求める場面を設定することが考えられます。



## ■更なる指導の改善・充実に向けて

全国学力・学習状況調査の結果から生徒の課題を把握するためには，具体的にどういうことをすればいいですか？

### 誤答分析により，つまずきの傾向を把握して指導改善を行う

生徒一人一人の解答には「意味」があります。正答であれば，基本的にその問いに対して必要な学力を備えていることが分かりますし，無答であれば，理解の状況や時間配分，学習意欲といったそれぞれに抱える課題が推察できます。そして，指導上大きな意味をもつのが誤答です。「どのように考えたのか」「どのような間違え方をしているのか」を的確に分析すれば，そこから今後の指導の大きなヒントをつかむことができます。誤答分析には，個人の誤答から課題を明らかにする視点と誤答の反応率から集団の傾向を把握する視点が必要です。

平成25・26年度全国学力・学習状況調査数学Ａの結果をもとに説明します。

#### 個人の誤答から課題を明らかにする視点

平成26年度全国学力・学習状況調査中学校数学Ａ 3 より

（4）連立方程式 $\begin{cases} y = 3x - 2 \\ y = 2x + 3 \end{cases}$ を解きなさい。

【生徒の誤答①】
$x = -5$，$y = -17$

【生徒の誤答②】
$x = 5$，$y = 1$

正答は，「$x = 5$，$y = 13$」です。誤答①は，計算の過程で $x$ の符号を誤り，その値を $y = 3x - 2$ に代入して $y$ の値を求めたと考えられます。誤答②は，$x$ の値は正しく求めたが，$x$ の値を $y = 2x + 3$ の $y$ に代入してしまったと見られます。このように解答した生徒は，連立方程式の解き方について理解はできていると考えられますので，落ち着いて正確に解く技能を習得させる必要があります。

そのためには，普段の授業において「途中の式をきちんと書く」「求めた値をもとの式に代入して成り立つかどうか確かめる」といった活動を習慣付けておくことが大切です。そうすることで自分で誤答に気付くことができ，さらには最初から計算し直すことなく間違ったところからできるため，効率的に正答に近付くことができると考えられます。

また，連立方程式の単元を学習しているときだけでなく，他の単元の学習が終わったときや学期末・学年末といった機会を捉えて振り返り学習を行い，計算についての技能をより定着させる活動を取り入れることも重要です。機会を捉えた振り返り学習ではその内容を工夫することにより，計算についての技能だけでなく，数量や図形についての知識もより一層の定着を図ることが期待できます。

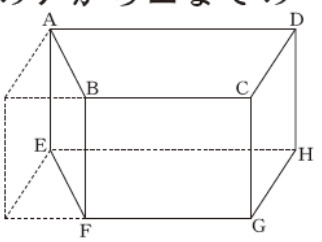
自校で解答の採点をする際には，正誤の判断だけでなく，不足している要素やその要素が不足したつまずきの要因を推測することが大切です。

## 誤答の反応率から集団の傾向を把握する視点

平成25年度全国学力・学習状況調査中学校数学A 5 より

次の図のような，直方体から三角柱を切り取ってつくった立体があります。この立体の辺を含む直線について，下のアからエまでの中から正しいものを１つ選びなさい。

ア 直線BFと直線DHは交わる。　ウ 直線ABと直線EFは交わる。
イ 直線BFと直線CGは交わる。　(エ) 直線ABと直線DCは交わる。




| 解答類型 | 反応率 |
|---|---|
| アと解答しているもの | 8.6 |
| イと解答しているもの | 13.2 |
| ウと解答しているもの | 19.6 |
| エと解答しているもの | 57.5 |

学習指導要領における領域・内容が同じ問題を過年度で比較すると，同じ領域・内容に継続して課題があることが分かるなど，学校としての傾向がつかめることもあります。

上記の例では，三つの誤答の反応率に偏りがあることが分かります。「イ」と解答した生徒の中には，２直線が交わることを２直線が立体の一つの同じ面に含まれることと混同している生徒がいると考えられます。また「ウ」と解答した生徒の中には，空間における２直線が平行であるかどうかを見取図から読み取ることができない生徒がいると考えられます。さらに正答の「エ」と解答しなかった生徒は，「どこまでも限りなく伸びている線」という直線の定義と，空間において見取図に表されない部分を想像することに課題があると考えられます。こうした分析から，誤答の反応率の偏りは，生徒たちの思考の様子や集団としての課題を把握するのに有効です。

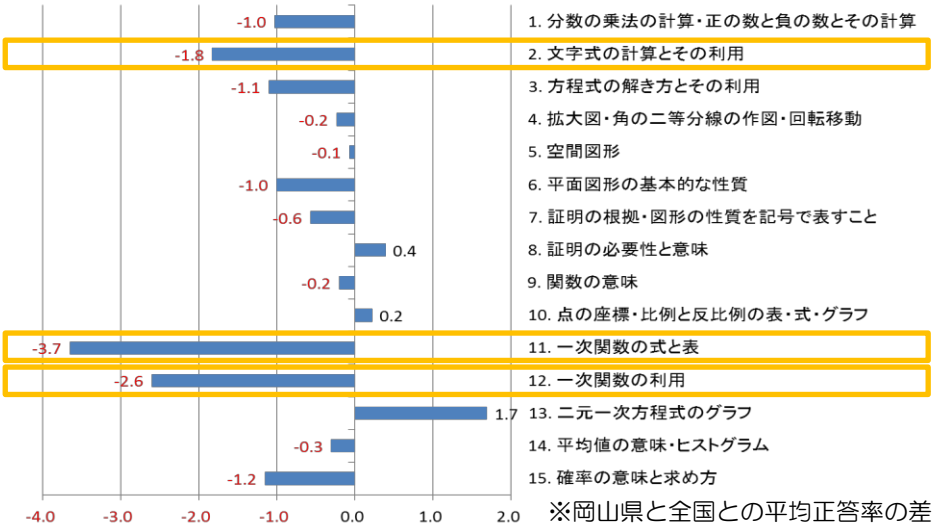
課題として捉えた設問について，校内研修の中で誤答分析に取り組み，生徒のつまずきの傾向を同一教科の担当教員だけでなく，学級担任等多くの教員で共通理解を図ることが大切です。

# ■単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実

基礎的・基本的な学習内容を定着させるための振り返り学習は，具体的にどうすればいいですか？

## （１）振り返り学習がなぜ必要か

これまでの全国学力・学習状況調査において，岡山県の生徒は，直前に学習した内容の設問に比べて，前学期あるいは前学年の学習内容の設問を苦手としてきました。つまり，学習内容の「習得」ができている一方で，「定着」が不十分という状況にあり，生徒の学力定着のための，単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実が求められています。

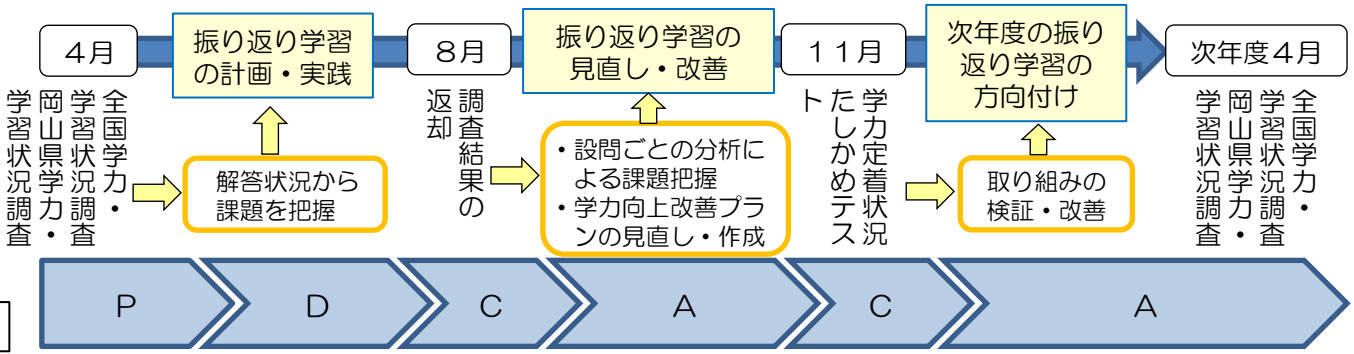


※岡山県と全国との平均正答率の差

平成25年度の調査結果によると，2年生の年度前半に学習する文字式や一次関数の問題を苦手としていることがわかります。生徒は，一度習得したことも，振り返りの機会がないと忘れてしまうものです。

## （２）振り返り学習の計画・実践・見直し

朝学習・放課後学習・家庭学習の時間などを有効に活用しながら振り返り学習を充実させ，生徒の学力の定着を図ることが大切です。そのためには，校内での体制づくりが必要です。全国学力・学習状況調査の結果から自校の課題を明確にした上で，自分たちの学校では，どのような体制で，どのような時間設定で，どのような内容で，どのような方法で振り返り学習を位置付けていくのか，学校全体で共通理解を図りましょう。そして，学力向上に向けた各校のＰＤＣＡサイクルに沿って，振り返り学習の計画・実践・見直しに取り組んでいきましょう。

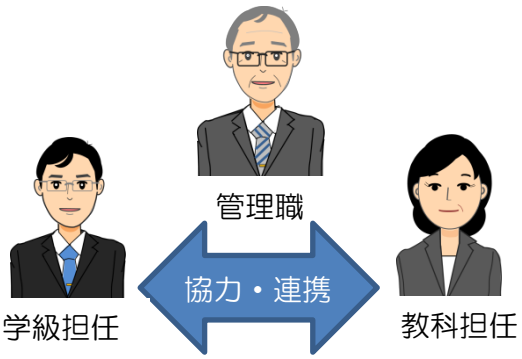


（３）取り組み事例

## ①振り返り学習の体制づくり

基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる体制づくりと朝学習の例を紹介します。

### ・体制づくりと役割分担（Ａ中学校）



©岡山県「ももっち」

まず，生徒の実態を踏まえ，学校全体で，学力向上の取り組みの進め方を共有しました。管理職が全教職員に呼びかけ，学年団で相談し，学級担任と教科担任の役割分担を決め，振り返り学習の体制づくりを行ってきました。

**取り組みのポイント１**

<u>◎学校全体で共通理解を図りながら，補充学習の体制づくりを行う。</u>

〇生徒の実態を踏まえ，補充学習の目的を明確にし，学校全体で共有します。

〇学級担任と教科担任が役割分担し，協力・連携しながら進めます。

## ②朝学習の取り組み

### ・「朝学習のきまり」（Ａ中学校）

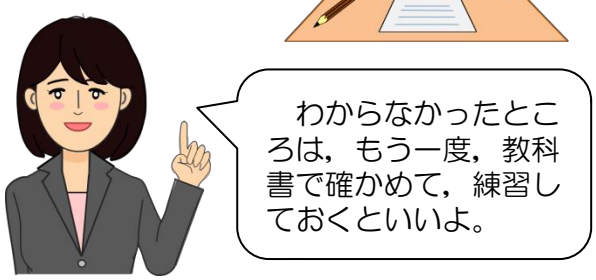
～朝学習のきまり～

１　実施日　毎週月曜日～金曜日

２　時　間　8:25～8:35（10分間）

３　内　容　市販の学習プリント（５教科）

朝学習により，生徒は習ったことを振り返る時間をつくり出すことができました。学級担任は，生徒の課題が克服できるように，机間指導で，個に応じて助言を行っています。




**取り組みのポイント２**

<u>◎生徒が自主的に取り組み，繰り返し学習できるようにする。</u>

〇朝学習の流れを決め，学級担任の指導の下，生徒が自主的に学習プリントを配付・回収して取り組めるようにします。

〇前の学年や前の単元の内容についても，繰り返し学習を行います。

## ③放課後学習の取り組み

基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる放課後学習の例を紹介します。

Ｂ中学校では，放課後に地域の学習ボランティアと協力して，基礎・基本の着実な積み上げを行うための放課後学習を進めています。

～放課後学習について～

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 実施時期 | 10月以降　毎週木曜日 |
| 2 | 時　間 | 16：00～17：00 |
| 3 | 内　容 | 数学の学習プリント |
| 4 | 対　象 | 中学校３年生希望者 |
| 5 | 指導者 | 学習ボランティア<br>非常勤講師等 |

### ・「習熟度別の学習コース」（Ｂ中学校）

基礎コースと発展コースを用意しています。それぞれの生徒の実態に合わせて，コースを選択できるようにしています。学習場所は２教室を用意して，落ち着いた環境の中で個別指導ができるように配慮しています。

学習ボランティアによる支援の様子

### ・「到達度確認テストを活用した学習内容」（Ｂ中学校）

基本的にはプリント学習を行っています。プリントは，数学の教科担当と連携をとりながら管理職も協力して準備をしています。岡山県学習到達度確認テスト等を活用することで，プリントを新たに準備するといった負担を減らす工夫もしています。

学習時間には，生徒の実態に合わせたプリントを指導者が配付した後，生徒が進んで問題を解いていきます。つまずいている生徒には適宜助言を行い，解き終わったプリントについては指導者が答え合わせをして，生徒に課題を自覚させます。

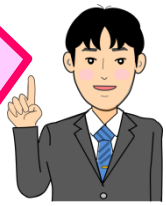
### 取り組みのポイント３

◎地域の学習ボランティア（退職教員）との協力により，生徒の学習支援を行う。

○学習ボランティアと生徒をつなぐコーディネーター役は，学校の教員が担っています。

○地域の学習ボランティアは，プリントの配付や答え合わせをする中で生徒を励まします。

○基礎コースと発展コースに分け，地域の学習ボランティアとの協力により個別指導を充実させています。



### 学校の先生からの声

地域の学習ボランティアの方は，「生徒が熱心でまじめに学習に取り組んでいるので，大変やりがいを感じている」と言ってくださっています。地域の方に学習支援をしていただく中で，中学校自体が地域とのつながりを強くしているように感じています。この放課後学習を設定していることで，生徒が自分自身の課題を明確に捉え，課題を解決していく中で，学習内容の確実な定着が図られてきたことを実感しています。

Ｂ中学校では，全校生徒を対象にした補充学習の時間を学校全体で生み出して設定し，基礎・基本の着実な積み上げを行うための取り組みを進めています。

## ・「時間を生み出し全校で取り組む補充学習」（Ｂ中学校）

部活動のない水曜日に，基礎学力の定着のために全校生徒を対象とした補充学習を行っています。時間は 40分を設定し，学級担任が中心となって指導を行います。前学年までの既習の学習内容を繰り返し行う振り返り学習により，基礎学力の定着を図っています。また，全校統一漢字テストにも取り組むことで，着実に成果を上げています。

| | | |
|---|---|---|
| １ | 時　間 | 部活動のない水曜日の放課後 |
| ２ | 対　象 | 全校生徒 |
| ３ | 指導者 | 学級担任 |

生徒の課題に応じた個別指導の様子

### 取り組みのポイント４

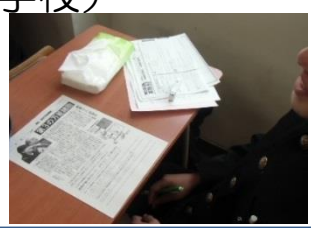
◎学校全体で時間を生み出し，ねらいを明確にして生徒の学習支援を行う。

〇行事や部活動のもち方を工夫し，基礎学力の定着を図るための時間を生み出します。

〇生徒の実態を捉え，新聞を活用するなど身に付けさせたい力について学校全体で共通理解を図り，学習内容を選定します。

## ・「校内で共通理解を図った学習内容」（Ｃ中学校）

Ｃ中学校では，国語，数学，社会，理科，英語の教科に加え，新聞を活用した内容を放課後学習に取り入れています。新聞の活用では，話題になっているニュースから情報を取り出し，感想をもたせたり新聞の主張について考えさせたりする時間を設定しています。



新聞を活用した学習の様子

### ここをチェック！

〇定期的な振り返り学習の見直しを行うこと！

・年度はじめに決めた振り返り学習の進め方で，一年間何となく取り組みを続けていませんか。全国学力・学習状況調査の結果や生徒の実態に応じて振り返り学習の進め方を見直し，改善を図っていくことが必要です。そのためには，学校全体で体制を整え直し，時間設定や学習内容，学習方法，支援の在り方などを具体的にどのように変更していくのかを協議し，決定していくことが必要になります。

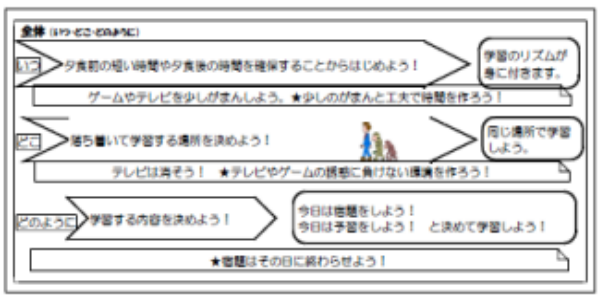
〇学力・学習状況調査問題等を活用すること！

・既存の調査問題や学習プリントを有効に活用しているでしょうか。全国や岡山県の学力・学習状況調査の結果を受けて課題がみられる設問を中心に，その課題の解決に向けて過去の設問を組み合わせた学習プリントを作成することもできます。また，市町村教育委員会を通じて配付された学習プリントや，義務教育課のWebページに掲載している春チャレンジ問題や夏チャレンジ問題を活用して生徒に取り組ませることもできます。　　http://www.pref.okayama.jp/soshiki/322/

## ④家庭学習の取り組み

基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる家庭学習の例を紹介します。

### ・「家庭学習の手引きの活用」（Ａ中学校）




学　力　向　上

～家庭学習はこれだ～

Ａ中学校では，「家庭学習の手引き」を作成し，生徒の学習習慣づくりを行っています。

学力向上には，授業と家庭学習のつながりが欠かせません。そこで，「家庭学習の手引き」を作成し，「いつ」「どこで」「どのように」といった家庭学習の進め方や各教科の内容を示し，生徒自ら学習に取り組めるようにしています。

### 取り組みのポイント５

◎家庭学習の進め方のコツを示し，生徒の望ましい学習習慣の定着を図る。

○学級担任が「家庭学習の手引き」をもとに，定期的に生徒に学習の仕方を振り返らせる機会をつくり，個々に応じた助言を行います。

○各教科担任が連携し，家庭学習の目安の時間を意識して，家庭学習の量を考えたり，提出期限を設定したりします。

### ・「生徒の生活習慣調べ」（Ａ中学校）

| 生活習慣 | 水曜日 | | 木曜日 | | 金曜日 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予定 | 実際 | 予定 | 実際 | 予定 | 実際 |
| 学習時間 | 330分 | 290分 | 310分 | 180分 | 330分 | 210分 |
| 睡眠時間 | 8時間10分 | | 8時間00分 | | 8時間15分 | |
| 朝食 | 食べた | 食べない | 食べた | 食べない | 食べた | 食べない |

テスト前のある生徒の「生活習慣調べ」の一部より

まず，学級担任が「家庭学習の手引き」を基に，生徒と望ましい生活習慣や学習時間の在り方について話し合いました。テスト週間中には，睡眠時間や朝食といった生活の様子を記録させ，生活の仕方の改善や，学習時間の確保などの取り組みを促すようにしています。

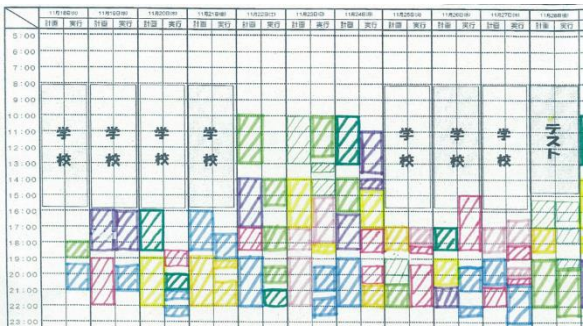
### 取り組みのポイント６

◎自分の生活習慣を振り返らせ，望ましい生活の仕方や家庭学習について考えさせたり，改善させたりする。

○睡眠や朝食といった生活の仕方と家庭学習のバランスを重視します。

○自分で家庭学習の目標や時間を設定させ，学習意欲の向上を図ります。

・「家庭学習時間の設定」（Ａ中学校）




教科ごとに色分けをして学習計画を立て，実際の学習時間との比較をしながら振り返りまで行います。保護者からのコメント欄を設け，家庭との連携を図っています。

©岡山県「ももっち」

【目標】
苦手な学習内容にしっかりと時間をかけるように計画し，目標時間を達成したい。

【反省】
苦手な数学の基本問題に時間をかけて繰り返し取り組み，素早く解くことができるようになった。

【保護者の方より】
自分なりに計画をしっかりと立てて，がんばっていたと思います。これからも努力しよう！

## 取り組みのポイント７

◎定期的な家庭学習時間調べにより，生徒が自分の学習時間を振り返ることができるようにする。

○家庭学習の手引きに学年ごとの目標時間を掲げることにより，自分の学習時間を客観的に見つめ直すことができるようにします。

○生徒の実態に応じた助言を行い，学習意欲を引き出したり，学習環境を整えたりします。

## ここをチェック！

○実態に応じた家庭学習の内容を工夫すること！

・生徒の実態や課題に応じて家庭学習の内容を工夫しているでしょうか。授業に合わせた家庭学習だけでなく，基礎的・基本的な内容の適切な繰り返しも必要です。家庭学習のがんばりが自覚できるように生徒の努力の様子を知らせたり称揚したりすることも大切です。

○家庭学習の量に偏りがないようにすること！

・家庭学習の量は適切でしょうか。教科によって，家庭学習の量が偏りすぎていたり，一度に多くの家庭学習が重なったりすると，生徒の取り組む意欲が持続しなかったり，内容の定着が図られなかったりすることがあります。教科担任同士で連携を図りながら，家庭学習の量に偏りがないように考えることが大切です。

○保護者への啓発に努めること！

・家庭や地域と連携しながら取り組めていますか。岡山県の学力・学習状況調査の結果から，スマートフォン等の所持率の増加，インターネットの使用時間の増加等による家庭学習の時間の減少といった実態が明らかになりました。家庭学習の習慣化には，保護者の協力が欠かせません。家庭への協力を依頼するとともに，学校通信や学級通信で家庭学習の重要性や方法等を掲載するなどの取り組みをしていきましょう。また，学校通信や学級通信では家庭学習についての保護者からの意見も随時掲載し，双方向の取り組みになるようにしていきましょう。

平成26年度岡山県総合教育センター所員研究（共同研究；教科教育）
「学力向上を図るための指導に関する研究Ⅰ」
研究委員会

指導助言者
村上　尚徳　環太平洋大学教授

研究委員
佐藤　裕之　岡山県総合教育センター教科教育部長
塩﨑　弘之　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
植月　愼二　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
河本　　尚　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
福田　知子　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
鈴木　隆幸　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
平田　朝一　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
山本　結城　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
田中誠一郎　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
堤　麻理子　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
久次　正浩　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
中川　泰輔　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
大塚　康広　岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

連携機関
岡山県教育庁義務教育課

※　この冊子を作成するにあたり，次の学校に情報を提供していただきました。
津山市立勝加茂小学校
備前市立片上小学校
真庭市立落合小学校
勝央町立勝間田小学校
美咲町立美咲中央小学校
美咲町立旭小学校
倉敷市立真備東中学校
高梁市立高梁中学校
真庭市立落合中学校

平成27年２月発行
子どもの学びを支えるヒント集
～　先生方の「？」にお答えします　～

編集兼発行所　　岡山県総合教育センター
〒716-1241　岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL(0866)56-9101　FAX(0866)56-9121
URL　http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/
E-MAIL　kyouikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ　教科教育部　TEL(0866)56-9103
Copyright©2015 Okayama Prefectural Education Center